

第3回富山きときと空港運営あり方検討会議 議事概要

1. 日時 令和4年2月28日(月) 10:00~12:00

2. 場所 富山県庁4階大会議室、オンライン

3. 出席委員

山内委員長、下川委員、中村委員、花岡委員、前田委員、宮本委員、森田委員、渡邊委員、吉田オブザーバー

4. 議事(概要)

(1) これまでの検討会議における議論の整理(資料P2~4)

(2) 将来像実現のための取組施策(資料P5~13)

<主な意見>

- ビジネス需要の底上げや近隣空港との連携は重要
- 空港周辺に企業の本社・製造拠点を誘致してはどうか
- ビジネスブスの運営等について工夫してもらいたい
- 富山県は産業集積が進んでおり、ビジネスリップを空路に移すだけで、旅客を伸ばせる見込みがある
- 富山空港の利用拡大は広域化につきるのではないか
- 利用圏域の拡大も含めて、新たな利用者の掘り起こしが重要
- 飛騨高山・上越妙高への入口という点も富山空港の特徴になる
- 観光面でのポテンシャルが高い富山県では、インバウンド取り込みのための施策が重要
- 多言語サイネージ等、インバウンド向けの観光案内サービスの充実が必要
- 便ごとにどのような人が利用しているのかビジネス需要の分析が必要
- 空港そのものが快適になることがリピート利用につながるだろう
- 民間活力導入にあたって、空港運営の担い手づくりに取り組んでほしい
- 取組施策は、一つだけでなく、全て実施しないと意味がない

(3) 民間活力導入手法の検討について(資料P14~18)

<主な意見>

- 民間の意見を聞きつつも、長期的な視点で検討する必要がある
- コンセプションありきではなく、最も良いスキームを今後検討していくべき
- 全国各地の空港でコンセプションが導入されているが、もっと柔軟な捉え方やこれまでの空港の概念に捉われない考え方も重要